

# 教育やまなし

2006 (平成18年)

3

No.214

◎特集1 / 地域に根ざし、地域と共に生きる人間性豊かな児童生徒の育成

◎特集2 / 山梨県高等学校芸術文化祭

◎特集3 / 平成17年度スーパーサイエンスハイスクールの取組について

●たくましいからだをはぐくむ健康・体力づくり実践事業④

●平成18年度の主なイベント予定

●社会教育活性化21世紀プラン

(公民館における異世代協働地域づくり推進事業)」について

●県立博物館開館記念特別展 よみがえる武田信玄の世界

●らくがき……富士河口高等学校 内田大介教諭

やまびこ養護学校 寺西修教諭

●県立美術館「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展

●学校紹介 / 笛吹市立富士見小学校・農林高校

●総合教育センター情報 / 教育指導部

●新教育委員長就任あいさつ

●県立図書館 / LET'S ぱすふぁいんダー! 「郷土食についての情報の探し方」

●山梨の文化財 / 国指定重要文化財

ハツ沢発電所施設 (東京電力株)

●主な行事予定



特集 1

地域に根ざし、地域と共に生きる人間性豊かな児童生徒の育成

「地域の人材を活用し、家庭や地域社会との連携による開かれた道徳教育の推進」

● 南アルプス市立白根巨摩中学校

◇はじめに

本校は、文部科学省より「平成十六・十七年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」、また南アルプス市教育委員会より前年度に引き続き「平成十七年度地域ふれあい道徳教育推進事業」の指定を受け、研究と実践を進めてきました。

研究課題として、特に「地域の人材を活用し、家庭や地域社会との連携による開かれた道徳教育の充実」「生命を尊重する心・思いやりの心を育てる道徳教育の充実」の二点を重点課題として取り上げました。

◇心の教育・連携の重要性

物的豊かさや、さまざまな情報が氾濫する社会の中で、子どもたちが本来もっている心の豊かさや道徳心が失われつつあります。このような中で、従来では考えられなかったような少年犯罪が多発しています。こうした社会の変化に伴う心の問題から、心の教育の重要性が強く叫ばれることは当然の成り行きであるともいえるのではないのでしょうか。

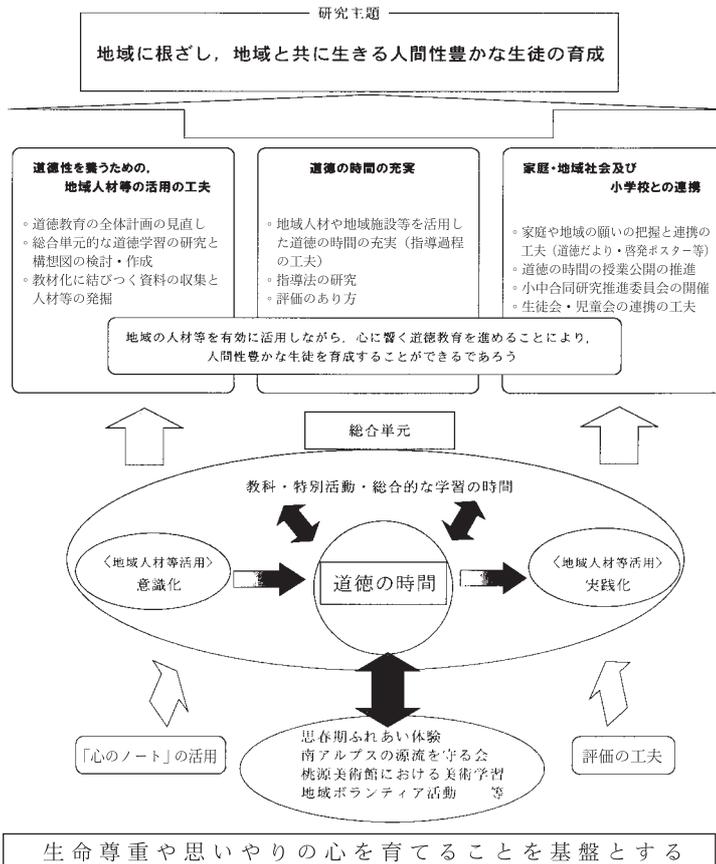
このような状況の中で、児童生徒の道徳性を養うには、その実態や地域性を考慮しながら、児童生徒の内面を揺り動かすことが大切だと考えます。そのためには学校生活全般はもとより、生活のよりどころである家庭や地域社会との密接な連携が必要になります。本校校区でこれまで目指してきた「開かれた学校づくり」

をさらに進め、家庭や地域社会との共通理解を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得ていくことにより、心に響く道徳教育の推進を目指してきました。

◇研究の構想

道徳教育の今日的な課題として取り上げられているものの中で、本校では特に「生命尊重」と「思いやり」の心の育成をとりあげました。これらは、多くの保護者の願いでもあります。この二つの内容の充実を基盤とし、地域人材を効果的に活用した総合単元的な道徳学習の展開を通して主題に迫っていくために次のような研究の構想をもって実践してきました。

研究の全体構想図



◇道徳教育全体計画と年間指導計画

家庭や地域社会との連携を図りながら、「かなめ」の時間である道徳の時間を中心として、総合的に取り組む道徳教育の推進のため、道徳教

育全体計画の再構築を行いました。

また、各学年の年間指導計画の見直しも行い、ねらいや評価、「心のノート」の活用について工夫をしてきました。特に評価においては、できるだけ子どもたちの「姿」を評価するように努力してきました。

### ◇地域人材の活用

地域人材の活用を進めるにあたって、ねらいや時間配分を明確にするとともに、外部講師の役割、教師の役割を区別し、外部講師を活用したねらいを生かすような授業構成を考えてきました。そこで、事前の綿密な打ち合わせと講師との人間関係作りを特に大切にしました。

△外部講師を活用した実践例▽

- ・ 保護者でもある校区の開業医
- ・ 青年海外協力隊経験のある方
- ・ 車椅子で生活している方
- ・ 環境カウンセラー
- ・ 森林インストラクター
- ・ ボランティアコーディネーター
- ・ 地域の消防署の消防士
- ・ 重い病気を克服した方
- ・ 自然飼育の養豚業者
- ・ スクールカウンセラーなど

### ◇総合単元的な道徳学習

各教科や特別活動、総合的な学習の時間における学習と道徳の時間との関連を十分に図り、補充・深化・統合していく道徳の時間となるように、道徳の時間を中心として有機的なまとまりを持った道徳学習を進めたいと考えました。そこで、生徒の意識の流れを大切にしながら道徳学習を進めていくために、「生命尊重」と「思いやり」の項目を中心に各学

年ごとに、家庭や地域の方に協力を仰いだり、地域の施設や自然環境を活用したりしながら総合単元的な道徳学習の構想を練り、実践してきました。



「命の授業」



乳児とのふれあい

### ◇「心のノート」の活用

「心のノート」の役割として、「自学自習ノート」「生活記録ノート」「心の架け橋ノート」というとらえ方ができます。それぞれの役割を果たすために、道徳の時間はもちろん、各教科、特別活動、総合的な学習の時間、日常生活において活用するようにはしてきました。活用するにあたっては、日常性、容易性、継続性や発達段階に応じた活用、またプライバシーの保護、自己の成長が実感できることなどの点に留意してきました。

### ◇家庭・地域・小学校との連携

家庭や地域社会との連携として、まず道徳教育に関する保護者アンケートを実施し、保護者の考え方や願いを把握しました。それを道徳教育全体計画や道徳の時間の進め方に生かしてきました。

また、学校だよりや学級通信を通して道徳に関する学校の考え方や子どもたちの様子を家庭や地域に発信してきました。

さらに保護者のもとより、祖父母や地域の方々に道徳の授業の公開を行うとともに「白根巨摩中学校道徳教育推進委員会」を中心に講演会や心の教育を推進するための懇談会も行ってきました。

小中連携の取組としては、小中連

携部会を中心に、児童生徒の交流や教職員の連携を考ました。

子どもたちの交流の足がかりとして、学校行事に招待をしたり、あいつつ運動や環境美化活動の時期を、小中で合わせて実施したりし、意識化を図ってきました。

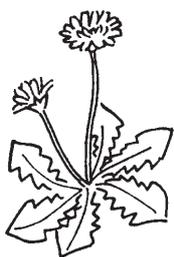
教職員においては、「小中合同研究推進委員会」の開催やお互いの授業の参観、合同の研究会や学習会を開いてきました。

小中の連携については、今後もさらに推進していきたいと思っています。

### ◇おわりに

「生命尊重」や「思いやり」の心をもった子どもたちの育成を中心に据えて取り組んできた結果、子どもたちの行動の中にその心が育っている様子がうかがえるようになりました。

今後も家庭や地域社会との連携を図りながら、心に響く道徳教育推進を通して、人間性豊かな生徒の育成のために、実践を積み重ねていきたいと考えています。



## 特集 2

## 山梨県高等学校芸術文化祭

## ● 山梨県高等学校文化連盟

## □はじめに

県高等学校芸術文化祭（以下芸文祭）は、多くの方々のご指導・ご支援によって、平成十七年度で二十六回目をむかえることができました。山梨県は他県に比べても早くから積極的に芸文祭に取り組んできました。内容の質を落とさず、むしろ年々盛大に今日の形を作ったことら諸先輩のご苦勞に、心から敬意と感謝を申し上げます。と思います。

さて、芸文祭は社団法人全国高等学校文化連盟に所属する山梨県高等学校文化連盟（以下高文連）が中心となって開催されますが、原則的には、この芸文祭で上位入賞をした個人・団体が県代表として、翌年の全国高等学校総合文化祭（以下高総文祭）に出場（出品）します。高総文祭は各県持ち回りで、今年度は青森県で開催されました。来年以降は、京都・島根・群馬・三重・宮崎の順で開催されます。

高校生同士の交流や、互いに感性を磨くことが主流となるので、順位をつける部門は多くありません。したがって、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に比べると、どうしても地味な扱いをされてしまいがちですが、私たち

は文化のインターハイと位置づけ、マスコミ・新聞などに今以上に大きく取り上げてもらえるよう、折に触れてお願いしているところです。

## □芸文祭と山梨高総文祭

芸文祭の第一回大会は昭和五十五年十一月八日県民会館大ホールで行われ、美術、書道、写真、合唱、吹奏楽、箏曲、バントワリングが出場（出品）しました。この時にはまだ高文連はなく、実行委員会が中心となって開催されました。高文連が正式に発足したのは昭和五十六年六月二十六日です。また、平成二年には第十四回高総文祭が山梨県で開催され、一万五千人の高校生が全国から参加しました。この大会を契機に、県内高校生の芸術・文化活動は年々盛んになり、各部門も態勢を整え、芸文祭に参加する部門も飛躍的に増えました。その流れが今日に至っているわけです。現在の加盟部門・部会は以下の通りです。

演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチング・バトン、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、新聞、自然科学、社会科学、文学、JRC、農業、工業、商業、家庭、定・通、茶道、

ユネスコ、高文連オーケストラ、総合開会式部会、パレード部会、巡回展部会

三十の部門・部会があります。第一回大会の参加部門数と比べると、いかに増えたかが一目瞭然です。生徒が減少している中で、文化部へ入っている生徒は延べ数ですが、むしろ増えていきます。それぞれの部門で委員長の先生をはじめとして、各学校の顧問・指導者の先生方が熱心に指導に当たられています。芸文祭は多くの部門で、高総文祭への出場をかけた大会です。生徒達はその日のために毎日毎日練習や制作に努力しています。その意味では、県高校総体に向けて練習する運動部の努力と変わりはありません。

## □今年度の芸文祭

今年度の芸文祭は「葡萄色に輝け！いろ・かたち・おと」のテーマのもと、十月十三日のユネスコ部門の発表をはじめとして、十一月九日のパレード・総合開会式を中心に、十二月十六日の工業部門まで、約二ヶ月の長期間にわたって行われました。基本的に、土・日を中心に開催すること、会場の都合もあるためです。